



ななつかの風～

畜産技術センターニュース

発行事務局
● 広島県立総合技術研究所
畜産技術センター技術支援部
〒727-0023
庄原市七塚町584番地
TEL 0824-74-0331
FAX 0824-74-1586

●今夏も！ 小学生の民泊&搾乳体験（8/18）！

今夏も、福山市立西深津小学校の5年生、45人が庄原市の民泊の取組みに参加し、その一環で、畜技センターで家畜の見学、搾乳体験をしました。

児童のみなさんは、最初に、靴底、体を消毒する意味について説明を聞き、納得した様子で、衛生管理区域(家畜飼養エリア)に入りました。

種雄牛の役割、乳牛の乳量などについて、研究員から説明を受けました。搾乳体験では、大きなホルスタインに触るのは初めてで、おそるおそるでしたが、搾り方を練習してチャレンジしました。みんな上手にミルクを搾ることができ、何回も挑戦する児童もいました。

質問にも積極的に手を上げて、『牛は胃袋をいくつ持ってるでしょうか？』『4つで～す』、『牛のひづめは2つに分かれており偶蹄類といいますが、ほかにどのような動物がいますか？』。まちがえた答えもありましたが、『シカ、ヤギ、ヒツジ、ラクダ、キリン・・・』と。また、ハイテクな搾乳ロボットを目の当たりにして、『すげ～え』。

また、大型トラクタ試乗、トウモロコシの観察などで、充実した時間を過ごせたようです。

みんな元気に、今夜の民泊地区へとバスで移動しました。彼、彼女たちが畜産に興味を持ち、将来を担う人になることを期待しています。



搾乳の仕方はどんなだろう？



上手い！
うまい！
酪農家になれるよ！



説明を熱心に聞く子供たち！



大型トラクタ試乗で大喜び！

●広島県堆肥共励会開催（8/27～28）！

堆肥共励会が、畜産技術センターを会場に開催されました。作物圃場への肥料源として、扱いやすく、利用しやすい堆肥の製造技術を競い、適正な土地還元を通じて、耕畜連携をますます進めることを目標として毎年行われています。

本年度は、県内から22点出品されました。外観評価：臭気、形状・均一性などの外観評価、堆肥の水分、灰分、全窒素、全リン酸、全加里、全石灰、全苦土、PH、EC、C/N比の測定、また、腐熟度は発芽試験で判定されます。

今回出品された堆肥はどれも良質で、臭気が無く、堆肥製造技術、仕上がりの判断技術は非常に優れておりました。本年は、庄原市の藤岡牧場さんが最優秀賞を受賞されました。



出品堆肥の審査風景！



表彰式の様子

また、この共励会で、農技センターの新技术セミナーが合わせて開催され、伊藤純樹総括研究員の講演『耕種農家にとって使いやすい堆肥とは—堆肥生産のポイント—』がありました。

内容は、作物栽培生産者が、土壌改良や施肥などの目標に応じて良質堆肥を上手に使うためには、堆肥生産者が堆肥生産の基本の遵守、堆肥の成分等の情報提供が重要であること。良質堆肥の条件は、①雑草の種子が死滅していること、②臭気が軽減されていること、③運搬、機械散布しやすい軽い堆肥であることが紹介されました。

参加者からは、「地域で様々な資源を有効活用して製造した堆肥の特徴を、作物生産農家にアピールする機会を持ちたい」との意見もありました。



『堆肥生産のポイント』講演会

●イノシシの活動が活発に！！！！

トウモロコシの収穫が、8/27から始まりました。

この時期には、トウモロコシの子実も充実してくることから、イノシシをはじめとする野生獣の活動も活発です。電気牧柵、網、箱ワナなどを総動員して対応しますが、なかなか・・・。

こうした中で、箱ワナに3頭の子イノシシが捕獲されました。小さくても、気が荒く、金網越しに人に飛びかかってきます。

また、夕方、畜舎の見回りをしていると、畜舎周りの土を掘り起こしながらイノシシが歩いています。

出くわすと、山のように大きなイノシシが威嚇して、『ガホッ、ガホッ』と捨て台詞！？を叫び、獣道に駆け下ります。威嚇されるときは、かなり、恐ろしいですね。

集落では、クマが出た、猿が出た、シカが出たと事欠きませんがみなさんもお気を付け下さい。



捕獲された子イノシシ キャング！
見た目はかわいいが・・・

●広島県酪農振興協議会視察（8/28）！

県内の乳業会社および団体（山陽乳業(株)、チチヤス(株)、(株)明治、広島協同乳業(株)、日本酪農協同(株)、江崎グリコ(株)、東洋乳業(株)、中国生乳販売農業協同組合連合会、広島県乳業協同組合、広島県牛乳普及協会)の方々、16名が、広島県における良質乳の安定確保にむけて、畜産技術センターの先端技術を学び、業務に役立てることを目的に訪問されました。

両研究部からは、飼料コスト低減に係る技術、飼料イネや飼料用米の酪農現場への応用、搾乳ロボットの導入前後の成績、搾乳ロボットを普及する場合の技術的課題、また、体外受精の最前線技術を紹介しました。

県内乳業の酪農指導者としての目線で、飼養や繁殖に関して、かなり突っ込んだ質問もありました。

その後、ロボット牛舎に移動し、搾乳ロボットによる搾乳作業の実際を視察されました。

県内に搾乳ロボットが稼働しているのは、広島大学と畜産技術センターの2か所であり、乳業指導者でも目にする機会もなく、導入コストと生産の関係について、興味をもって質問されていました。

乳業界の状況について、畜産技術センターサイドも知る機会を得ることができ、非常に有意義な視察であったと考えています。



畜技センター研究最前線の紹介



搾乳ロボット稼働状況視察

●予告！！（微細断飼料イネ収穫利用に関する現地検討会）

平成25～27年で、競争的研究資金を獲得し実施している『画期的WCS用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発実証』共同研究の現地検討会が開催されます。

開催時期は、11/19～20の2日間です。

11/19には、圃場からの効率的搬送のために、飼料イネ『たちすずか』を、従来の切断長よりも細かく切断して(微細断して)収穫できる機械のお披露目(debut!)、さらに、トラックにより微細断飼料イネを畜技センターに搬送し、バンカーサイロ詰めする工程を見学して頂きます。また、併せて、これら微細断飼料を給与しているロボット牛舎の乳牛の見学もあります。

11/20には、三次庁舎を会場に、共同研究の成果の検討会が行われます。現在の飼料イネ研究の最前線の紹介です。

みなさん、予定を開けて、ぜひ、おいでください！！

編集後記：収穫の秋になりました。

例年より雨が多かったためか、ぬかるむ田んぼでの収穫に苦労されているところが散見されます。秋晴れのようにスカッと終わりたいところです。・・・SS